

## 令和3年度 中堅教諭等資質向上研修開講式 教育長挨拶

令和3年4月23日（金）13時45分

さいたま市教育研究所 研修ホール 他

皆さん、こんにちは。教育長の細田でございます。

「中堅教諭等資質向上研修」の開講に当たり、激励の意味を込めまして一言ご挨拶をさせていただきます。

今般のコロナ禍では、皆様方も様々な困難に直面し、その都度時には不安を感じたり、子どもたちに我慢をさせてばかりで辛いなどお思いになったりしながらお仕事を進めておいでだったのではないのでしょうか。

そういう中で、私共は、子どもたちの学びを保障するために、皆様方のお力を借りながら、皆様方それぞれにご尽力していただきながら、この難局を切り抜けているところでございます。心から感謝を申し上げます。ありがとうございます。

これから皆さんが取り組まれる、中堅教諭等資質向上研修では、教育活動やその他の学校運営において、今まさに中核的な役割を果たすことが期待されている皆さんにとって必要な資質能力を伸ばしていただくことをねらいとしております。ぜひ、皆様方一人ひとりに求められているということをお考えの上、一年間の研修に励んでいただきたいと思います。

すでに学校運営の要として、ご活躍されている皆さんには、私はこれから起こりうる時代の変化に対して、幅広い視野をもっていただきたい、そのことをこの研修を通してつかんでいただきたいと思っております。そのために本日は3つのポイントを申し上げたいと思います。

1つ目は、ぜひ「点でものを見ないで、線で捉える」ということをしていただきたいということです。私たちはどうしても目の前の子どもたちの抱えている課題にエネルギーを削がれがちです。時に、そういった日々の子どもの課題に振り回されてしまうこともあると思います。しかし、10年目を迎える

教員経験からすると、少し目線を先にもっていくことができれば対応の幅が広がってくるということでございます。

私たちは教育の専門家でございます。そのためにはプロフェッショナルとしての矜持をもってぜひ学び続けていただきたいと申し上げます。常に正確で多様な情報を把握し、それを縦横無尽に組み合わせて、仲間と議論することで、目の前の課題、その点がそこから先に繋がる線として見えてくる場合がございます。ここで申し上げたいことは、ぜひ、学び情報を得ること、そして、それを駆使して議論し先を見る力をつけるということでございます。

2つ目は、「変化を恐れない、強靱な精神をもちましょう」ということでございます。日本の教育はこれまで成功を収めてまいりました。そのおかげで評価も高いことから、往々にして変わることを躊躇する、そんなきらいがあると思っております。その変わることを躊躇する、変わることに對してためらいがあるというそのことが時として、それをカモフラージュするために使い勝手のよい言葉で「不易と流行」という風に言うてしまうことがあると思います。私はこんな風に捉えているのです。変わることに躊躇する場合、往々にして、それを不易だから変えない方がよいと考える、と、こうあえて申し上げます。しかし、そう言っていることの多くは本当に不易といえるのかと私はよく疑いをもっています。松尾芭蕉は、彼の俳論をまとめた書物「去来抄」の中で、このように言っています。「不易を知らざれば基立ちがたく、流行を知らざれば風新たにならず」。どういうことかといいますと、基礎基本がきちんとできていないと流行も見間違えてしまつて風流のある俳句は生まれえないというような意味ですが、もう少し深くものを考えていきますと、「不易」と「流行」というものは一見矛盾しているように感ずるけれど、実は、根本について結びついていないのではないかという風に捉えることができると考えております。私は究極の「教育の不易」というのは「子どもを愛する気持ち」に帰結すると考えております。子どもたちは、私たちがまだ見たことがない世界を生きていく、そういう人々です。であるとするならば、変化することを前向きに受け入れることができる強靱な精神をもちましょう。変化することに恐れてはなりません。

3つ目は、「よい取組、盛進的な取組の情報を共有しましょう」ということです。時代は「オープン・シェア」です。皆さんの中に4月14日に放送されたNHKの「クローズアップ現代」をご覧になった方はいらっしゃるでしょうか。とても面白かったです。あの中で、34歳で今正に進化を続けているダルビッシュ有投手、箱根駅伝で常勝軍団に成長を遂げた青山学院大学陸上競技部、この二つの取組が主に取り上げられていました。背景にあるのは「データのオープン・シェア革命」です。例えばダルビッシュ投手ですと、武器である変化球の投げ方や、青学ですと、長距離に特化したトレーニング方法を惜しげもなく一般に公開するのです。そして、そこから多くの選手が技術を学んで、さらに進化した技術を学ぶという成長の好循環、これが生まれる。この考え方が「オープン・シェア」という考え方です。是非皆さん、素晴らしい取組を皆さんでシェアし、そしてさらによいものにしていく、この精神で参りましょう。今さいたま市教育もオープン・シェアを積極的に実践しています。一例でございまして、GIGAスクール構想で一部の校長先生、それからこの中にもいらっしゃるかもしれませんが、エバンジェリストの皆さんは、オープン・シェアのためのプラットフォームを作って様々な情報を交換しています。皆さんたちも是非この仲間で、オープン・シェアのプラットフォームを作って存分に情報交換をし、互いに高め合っていたいただきたいと思います。

私も経験があります。10年目くらいの時に自分が出来上がったというように勘違いすることがありました。2回も担任をして卒業生を出している、学校の中でもある一定の発言権あり、ものも見られるようになった。授業も、なかなかいい腕しているよと誰も褒めてくれないけれども自画自賛しているような、そんな時期でした。そういう時だからこそもう一度自分自身の基礎基本に立ち返って、そしてこのネットワークを利用して学んでいていただきたいと思います。同じ時期に教員になって同じように成長していく仲間は一生涯ものです。さいたま市教育に新風を吹き込む若き教員集団の成長を大いに期待しています。

結びにあたり、校務御多用の中、御出席いただきましたさいたま市中学校長会 松戸 政世史（まつど まさよし）会長に御礼を申し上げ、挨拶といたします。皆さん、一緒に学んでまいりましょう。